

東北教区報 2025年10月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <https://nssk-tohoku.com/>シリーズ「東北の信徒への手紙」
「私」を受け入れてくださる

主イエスの愛

司祭 ステパノ 越山 哲也

教区報2024年3月号の巻頭言で私が日頃関わらせていただいている教誨師の活動について書かせていただきました。8月28日(木)から29日(金)まで、法務省で開催された「教誨師中央研修会」に参加してきました。

この研修会は、教誨師として委嘱されてから5年未満で、中央研修会に出席経験のない教誨師を対象としております。私は5年前に委嘱されましたが、コロナ禍もあり、しばらく研修会が休止されていたので参加することが出来ずにおりました。今回は機会を得て大変良い学びの時が与えられました。全国から研修生とスタッフ関係者合わせて約100名、教宗派は仏教、神



本討論のテーマは「被收容者(受刑者)の再犯を防ぐために教誨活動で何が出来るか」でした。被收容者の中には、罪を犯した自覚がなく、自暴自棄になっている方もいると

いう話も伺いました。そのような方とどのように向き合っていけばよいのか皆さん悩んでおられ、「ただひたすら聴く」「雑談をする」「褒める」とにかく対話をする」といった日頃の教誨活動を紹介していただきました。罪の自覚がない方の話もまずはひたすら聴き、徹底的に向き合っていくことによって、少しずつ自らが犯してしまった罪の重さに

気づき自覚していかれた方もいたそうです。教誨活動においても「傾聴」がいかに大切なことであるかを思いました。2024年東北教区宣教協議会からは「神のみ声に、人々の声に、そして世界の声に、耳を傾けよう」となりびととなるために」と呼びかけが出され、教区では今年は「聴くこと」を大切にしていきたいという働きかけが展開されています。そして、この「聴くこと」はキリスト教に限らず、仏教、神道、天理教も共通していることを知り、日本聖公会の方向性は間違っていないと再認識することが出来ました。中央研修会でも聖公会の取り組みを紹介し、皆さんが共感してくださいました。

被收容者の方の多くは普段は自分の話をすることはあまりなく、話もこちらから一方的に話すことがどうしても多いのですが、それはこれまでの人生の中で話を聴いてもなかったという経験に乏しいことに起因しているようです。「お前の話など聞く価値がない」「聴く時間は無駄」などと人格を否定され、暴言、暴力を受ける環境の中で、自分は生きていても意味がない、誰からも必要とされていないと心を閉ざし、自暴自棄になって罪を犯してしまった方が多いのです。私たちは自分の存在を誰かに認めてもらいたい、「私はここにいます」という心の切なる叫びを聞いて欲しいという思いは誰しもが持っていると思います。聖書に記されている主イエスと出会った人々もみなそうでした。天台宗の僧侶の方が「縁さえ整えば人は誰しもが罪を犯す」と仰っていました。本当にそうだなと思います。私たちは神の御心に背くという原罪を持ってこの世に生を受けていることを、日々自覚しなければならぬと思います。しかし、主イエスはそんな私たちのもとへ寄り添い、留まり、「私」のすべてを受け入れてくださるのです。私は今後の教誨活動を行う時に、聖書の教え、主イエスの愛を話す時間も大切にしながら、被收容者の話に耳を傾けることを大切にしていきたいと思っております。

(盛岡聖公会牧師)

奉仕職養成グループ主催研修会 「奉仕のススメ」part9 開催

台基督教会に約20名、オンラインでは北海道教区からの参加もあり、多くの方に関心を寄せていただきましたことに感謝いたします。

当日参加できず、後日視聴できる方法があれば視聴したいのご要望もあり、YouTubeへアップロードしました。視聴希望の際は、牧師

8月17日(日)午後、「奉仕のススメ part9」が開催されました。「召命を聴こう」をテーマに、今年4月から聖公会神学院「信徒の奉仕・召命コース」オンライン講座を受講されておられる白鳥五大さん(青森聖アンデレ教会信徒)、国分敬子さん(郡山聖

参加者の声

へお問い合わせください。
(リーダー 若生 伸子)

「御奉仕で与えられた恵み」

仙台聖フランシス教会

ナホミ 今野 志のぶ

8月17日、オンラインによる「奉仕のススメ」を教会のホールにて、長谷川主教の後ろにかくれて?視聴させていただきました。初めての参加でした。

お話しくださったお2人の方の御奉仕に向かわれる学びの姿勢に「奉仕とは」と、改めて考えさせられた一時を感じたいします。

教会に連なつて何十年?時折、姉とも話したりする『御奉仕、できる人が、できることを、できる時に...』との

ほんとした姿勢で子どもと関わることの楽しさ、子どもから受ける刺激にあとおしきれながら続けてきましたが、もう一歩で80才となる身、これからのようなお手伝いができるのかわかりませんが、忘れられないことがあります。その昔(42、43年前)郡山

聖ペテロ聖パウロ教会の日曜学校で関わった子どもからの一言で、ほんの少し真面目に聖書と向きあいつつ教会のお手伝いをするきっかけを与えられた思い出を記してみたいと思います。

主日礼拝、笹森伸児司祭のお話の後、分級。4、5年生の男子、3、4人と共に聖書を開いている時、「成就って何?」(まだ新共同訳ではない聖書を用いていた頃です)「旧約聖書に、この様に成りますよ、と言われていることが本当になることヨ」答えたのに被せて、「旧約聖書のどこに書いてあるの?」と、この時以来子どもと共に聖書に向き合う時には、どんな反応がくるのか。手強いぞ、油断せずに、の思いで関わり向き合う様になりました。

漠然と聖書を開いていた身に奉仕を通じて与えられた御導きかと感謝したことを思い出しつつ今に至っています。さて、思いと体力は別物。今後どの様なお手伝いをさせていたただけるのか、不安と共に歩んで行くことになるのでしょう。

十和田平和の祈り 十和田湖の風に吹かれ平和を想う

十和田湖畔施設活用グループ クリスマスチーナ 曾根 美砂

その日の十和田湖は、心地よい風が吹き、雲が日差しを遮り雨の心配もなく、集まった私たちをホッとさせてくれる気候でした。

2025年8月9日(土)、まさに80年前に長崎に原爆が落とされたその日に、八戸、弘前、青森、盛岡、大館、仙台から総勢22名が集まり、鉛山礼拝堂で平和の祈りを捧げました。李贊熙司祭の説教で「今、ここにあるこの笑顔が平和です。」という力強い言葉に心を動かされ、「主の平和」の挨拶で礼拝堂の中がたたかな空気に包まれました。ヴァイナル山荘では、にぎやかに万国旗や金魚ねぶた、仙台平和七夕の折り鶴が飾られ、今年は盛岡市にある善隣館書店店長の佐々木章氏によるピースフルコンサートが開催されました。私たちが知らない平和をテーマにした聖歌や曲、絵本うたの数々を楽しみながら、参加者の歌声も湖畔に響きました。

参加された方々からの感想です。「神様を讃美する聖歌の中にこんなにたくさん平和のことを歌っている曲があるのだと知りました」「懐かしい十和田の大自然の中で、祈りが込められたたくさんさんの歌を聴いたり自分も歌えたりして、心から楽しみ、私たちの心が平和な気持ちに包まれた一日でした。素敵な歌声やトークで、平和がテーマの曲をたくさん聞かせてくれた佐々木さんに感謝!」

この平和が私たちの中だけに留まらず、世界中に広がることを祈りながら...



東北教区保育連盟第51回保育者大会

東北教区保育連盟会長 アイリーン 坂水 かよ



園から教職員をはじめとする関係者、総勢104名が一堂に集まって貴重な研修と交流の時間を持ちました。

大会主題は「子どもの中のイエス様につながる」です。開会礼拝で長谷川清純主教から奨励をいただき2日間の大会がスタートしました。

1日目の研修は「自然の中で遊びながら学ぶ教育」を推進し実践する出原大先生（愛媛県むぎの穂保育園園長）の講演をお聴きしましたが「自然との出会い、子どもたちの無邪気な遊びの中には深い意味がある」という先生の理念と熱いメッセージが強く心に響きました。

2日目は、トータルビジョントレーニング協会代表の千葉敦子先生の、「子どもの発達と視覚の関係性」というテーマで実技も交えながらの講演でした。近くの人とペアになって「身体を動かすことで目と脳が繋がる」体験学習ではあちらこちらで笑いが起き、楽しい研修となりました。

さて、51回と回を重ねてきた保育者大会ですが、第48回大会以降、3年間はコロナ禍のために開催が見送られました。2023年の再開以降、

この保育者大会で連盟の仲間と再会し一堂に集う喜びがさらに強くなっているように感じます。会場内には近況を語り合う輪が広がり、終始笑顔と活気があふれていました。

また、今回の大会で強く心に残ったことのひとつとして、弘前昇天教会の皆さまがこの大会のために、協力、応援をしてくださったことです。大会の前後にはゴシック様式煉瓦造りの歴史ある教会の門を開き、見学の時間を設けて歓迎してくださいました。大会初日の夕食懇親会にも佐藤忠男主教はじめ教会の方々が参加してくださり、一緒に「弘前ご当地クイズ」で盛り上がり、共に過ごす時間を豊かにしてくださいました。

共に集うこと、繋がることの喜びを感じた温かい研修会でした。この温もりのバトンを次期当番の福島県へとお渡しし、2日間の充実した大会は終了しました。

主教コラム



8月8日夜、入所先の介護施設の一室で、可愛い娘3人に看取られながら、妻の母が老衰で息を引き取りました。90歳でした。

37年前、和歌山県新宮市の自宅で、おそらく早くに亡くした夫を偲びながら、長女との結婚をお許しいただいた義母でした。牧師とその妻とは皆目見当がつかなかったはずで、まさか東北にまで行くなんて想定外だったでしょう。

1991年3月、母は1歳と2歳の孫二人の引っ越しで、まだ寒さの厳しい会津若松まで来てくれ有難いことでした。

2021年になって、母と次女との自宅暮らしが覚束ないと身内から連絡が入り、青森聖アンデレ教会委員会に相談の上、5月に「青森に行こう!」と飛行機に乗せて牧師館に居を移しました。エアコンを設置、暖房を整えていただいた教会の皆様には本当に感謝しかありません。母は軽いアルツハイマー型認知症と

の検査結果でしたが、信徒のお医者さんにかかれて安心して、デイサービスを利用して日々にこやかに暮らしていました。2024年4月、仙台聖フランシス教会牧師館に引っ越し、青森時代のようにデイサービスを受けていましたが、次第に衰えはじめ、食事もだんだん取れなくなり、今年1月誤嚥性肺炎で3日間入院、2月脱水症状を発症し50日間の24時間付き添い入院、退院後は在宅医療で過ごし、最後の39日間はショートステイをして介護施設におりました。

在宅療養中、兵庫県で働いている三女が4月から3カ月介護休暇を取って一緒に生活し、仕事復帰後も往來を繰り返していました。再会した日の夜に三姉妹たちが揃っている中での最期になりました。穏やかで静かなお別れでした。主教になった私の紫シャツ姿に、母はいつも必ずニヤニヤしては「赤いよ」と言っていて嬉しかったのがいつまでも残っています。それは今、母からの激励・応援の声のように響いています。

東北教区 青年キャンプ報告

8月9日(土)から11日(月)の3日間、大館を会場として、教区青年キャンプが2年ぶりに開催されました。今年は参加者に加えて、大館聖パウロ教会の日曜学校の生徒さんら部分参加の人、大館聖パウロ教会の信徒の皆さんと合わせて延べ30名を超す参加者と、楽しい時を過ごすことができました。

1日目に共に夕食を作りながら親睦を深め、2日目には大館聖パウロ教会の聖餐式に参列、午後には大館幼稚園の児童のためにテーブルを作成しました。そして最終日には小坂鉄道レールバイクのアクティビティや、秋田犬との触れあい等、楽しい時間を過ごし、感謝のうちに解散しました。

最後にこのキャンプのためにたくさんの方々が祈りと心を



を寄せてくださったことに感謝いたします。

(青少年活動推進グループリーダー)

司祭 渡部 拓

参加者の声

聖ルカ幼稚園

渡邊玲華・長澤柊寧・大和田涼菜

今年の青年キャンプには、聖ルカ幼稚園から3人で参加させていただきました。大館で過ごした3日間、特に印象に残っていることについて書きたいと思います。

一つは、大館幼稚園での礼拝です。教会の方々と一緒に参加させていただきました。また、聖ルカ幼稚園のことを古くから知っている方や以前保育者をされていた方から、当時の話をお聞きし、楽しい時間を過ごすことができました。その後は、大館幼稚園の子どもたちが使うテーブル作りに挑戦しました。1台はニスを塗って木目を生かしたデザインに。もう1台は3色のペンキを塗ってカラフルなテーブルになりました。慣れない作業に苦戦しましたが、子どもたちにもたくさん使ってもらえたら嬉しいです。夕方

には、日曜学校の子どもたちと一緒にゲームを楽しみました。子どもたちがこうして集まり、聖歌を歌う姿を見て、幼稚園を離れた今でも神さまを通して繋がっているのだなと、嬉しい気持ちになりました。もう一つは、最終日に挑戦したレールバイクです。4キロの道のりを、3人で夏歌を口ずさみながら、一生懸命漕ぎました。たくさん汗をかきましたが、大館の自然に触れ、リフレッシュすることができました。

この3日間、たくさんの教会の方にお会いする中で何度も「ようこそ、こんなところまで」「若い先生が来てくれて嬉しい」と声をかけていただきました。青年キャンプに参加しただけの私たちをこんなにも歓迎していただけたとは思っておらず、驚きの気持ちと温かく迎え入れてくださったことに感謝の気持ちでいっぱいです。秋田の大自然と人の温かさを感じた3日間となりました。色々な楽しい企画を考えてくださった中村園長先生、一緒に青年キャンプに参加した皆様、本当にありがとうございました。



新^{にかづぶ}冠聖フランシス教会



新冠聖フランシス教会は馬産地・日高の「サラブレッドロード」を進んだ先の緑丘にあり、この地の戦後すぐの呼称は新冠村字ウンネップであります。1950年旧満州・樺太よりの引揚者の入植した「新冠御料牧場跡地」で宣教が開始されました。指導者として挙げられるのが無医村で奉仕された矢澤信明医師で、多くの方々が尊敬をもってその名を口にし、子どもたちも多く集いました。多くの先人が召され、現在の礼拝は月に2回となっております。

次回からは「幼保園」の紹介が始まります。

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

●8月の水曜喫茶支援は「猛暑回避」としてお休みにしました。予定していた日は新地町でもとんでもない温度になり、中止にして正解でした。担当の渡部さんのナイスなご判断でした。9月まで活動も夏休みとなりましたが、皆さんお元気にお過ごしでしょうか？小生が少しバテながらの質問です。

●福島県内では除染土の処理について毎日のように報道されています。「除去」「遮断」「遠ざける」の3つが考えられますが「消して無くす」ことが出来るなら最高なのですが、まったく無理なのが放射性物質の恐ろしさです。小生の自宅に近い福島駅西口は今日は0.124μシーベルトでした。これは毎度変わります。

●「広畑お茶会2025」は11月14日(金)、いつもの新地町勤労青少年ホームで行います。関係者の皆さんよろしくお願いたします。

(リーダー 浅原 和裕)

北海道教区 ユースキャンプ報告

8月8日から11日かけて、昨年に続き、北海道教区の夏の青少年プログラムが開催されました。東北教区からも参加していただき、参加者11名、スタッフ5名のほか、プログラムの前半には笹森田鶴主教も加わってくださいました。総勢17名で始まったキャンプですが、参加者一人が途中で体調を崩し帰宅を余儀なくされて残念でしたが、ほかは事故なく終えることができた感謝です。今年は会場を胆振地方とし、登別の貸し切りコテージに宿泊しながら、苫小牧聖ルカ教会で開会礼拝、アイヌ文化活動アドバイザーの中原直彦さんを講師にお招きして



アイヌ文化についての学びと体験をいたしました。2日目は白老のウポポイ（民族共生象徴空間）を訪ね、アイヌ文様刺繍の体験し、当初予定していた時間を延長して滞在しました。その日の夕食は班ごとによる準備で「カレーコンテスト」。見た目も味もユニークなおいしいカレーで食事を楽しみました。主日は苫小牧聖ルカ教会の聖餐式。教会の皆さまに温かく迎えていただき感謝です。小学5年生から大学生まで夏のひとときを一緒に過ごす、貴重で楽しい祝福に満ちたキャンプでした。ぜひ来年も多くの参加が与えられますように。

北海道教区 青年担当

司祭 クリストファー

永谷 亮

参加者の声

東北教区盛岡聖公会

エステル 越山

碧

今回のユースキャンプは東北教区から私一人の参加だったため不安もありましたが、学びのある楽しい4日間となりました。初日は、苫小牧聖

ルカ教会にて中原直彦さんからアイヌについて講演をいただきました。アイヌと聞くと歴史で名前を習ったくらいで遠い存在だと思っていましたが、先祖を辿ってみるとアイヌに繋がるかもしれないと聞いて、少しアイヌを身近に捉えるようになりました。最後に中原さんが歌ってくださいました「武四郎さん旅日記」は参加者が口ずさむほど記憶に残るものでした。2日目はウポ

ポイでアイヌ民族の文化や歴史を学びに行きました。魚で作った靴や伝統的な楽器、舞が特に印象的でした。職員の方がアイヌ語を用いてお話をさっていてアイヌを身近に感じる工夫をしているのだなと思いました。3日目はぶらつとみなと市場での班行動、聖餐式の後BBQを行いました。アットホームな雰囲気の中行われた聖餐式はとても新鮮でした。私の所属している教会には同じ世代の人が少なく若者の交流の場がなかったため、今回のキャンプで同世代の人たちと触れ合うことができ、とても楽しかったです。数年後に同じ教区として歩む者ど

うし絆を深めることができたので、今後もうこういう機会に恵まれるといいなと思います。

北海道教区札幌聖ミカエル教会

ダニエル 厚母 翠

今年のユースキャンプは、

登別の貸し別荘「コスモステーションイン登別」で行われました。一棟を丸ごと借り切ったことで、他の利用者を気にせず、仲間とゆったりとした時間を過ごすことができ、心に残る3泊4日となりました。初日は苫小牧聖ルカ教会で開会礼拝を守り、その後、中原直彦さんからアイヌの文化や歴史について学びました。テンポの良いお話と親しみやすい歌に引き込まれ、楽しみながら理解を深めることができました。2日目は民族共生象徴空間ウポポイを訪れ、展示や体験を通してアイヌの人々の暮らしに触れ、知識だけでなく心に響く学びを得られました。3日目は班ごとに「ぶらつとみなと市場」で食事を楽しんだ後、苫小牧聖ルカ教会で主日礼拝をおさげしました。夜にはウッドデッキでバーベキューを行い、笑

常置委員会報告 (第10回・8月22日)

報告事項▼常置委員長報告／基本財産処分関係、チーム北国活動進捗状況、第69（臨時）総会開催概要について。

協議事項▼前回に引き続き若松諸聖徒教会の建築（境内地変更）に関する現況について、オンラインで同教会管理牧師、教会委員、若松聖愛幼稚園園長と意見交換を行った。▼宣教強化資金運用規程前文に加筆する新庄聖マルコ教会処分資金「聖マルコ資金」の説明について確認し修正。▼新教区名、新主教座聖堂・新教区事務所機能・主教館についての検討。▼総務主事より提案された旅費規程の簡略化版を承認。▼第110（定期）教区会に上程予定の議案の整理を行った。法人一元化の本教区会での承認決議に向けて進捗状況を確認。



釜石神愛伝道所

釜石神愛伝道所の聖餐式は神愛こども園のお誕生礼拝に併せて、今年度から2カ月に一度行われています。

その分の聖餐式は盛岡聖公会に行くことを心掛けていますが、まだ2カ月に一回程の参加です。参加した日はご一

緒に会食したり皆さんとおしゃべりをしたり、自分で言うのも何ですが、昔から居た様に馴染んでいると思います。

釜石伝道所での聖餐式はこども園のお昼寝の時間に行いますので、参加する職員に併せて約一時間で終了するようになっていて、これが習慣になっていました。盛岡聖公会のお礼拝に参加するようになって先ず感じたことは、大きな教会のお礼拝は長い、ということでした。聖歌は4曲は歌いますし、司祭様

のお説教もたっぷり聴くことができます。時間は長くなりましたが有難い時間はあっという間に過ぎてしまい、あー満足した！と心が喜び元氣になります。明日からの活力補給も満タンになり、帰り路の運転は益々気持ち晴れやかになって帰って来ます。

小名浜聖テモテ教会

各地でせみの鳴き声が聞こえ始め、本格的な夏が訪れました。そのような暑さの中で、主教巡回が行われました。久

公 示

日本聖公会東北教区第110（定期）教区会を下記のように招集します。

救主降生2025年9月1日

日本聖公会東北教区

教区会議長

主教 フランシス 長谷川清純 ㊞

記

日時 2025年11月23日(日)18時から

24日(月)17時まで

場所 日本聖公会東北教区 主教座聖堂 仙台基督教会

礼拝堂・ビンステッド主教記念ホール

仙台市青葉区国分町二丁目13-15

書記局を下記のように指名します。

書記長 司祭 ヨハネ 八木 正言

書記 セント・クリストファー 赤坂 聖矢

以上

東北教区婦人会主催

「ミニフェスティバル in 盛岡」

10月18日(土) 11時～15時

会場 盛岡聖公会・仁王幼稚園



お申し込み、詳細は各教会にお送りしている案内をご覧ください。

しぶりに幼稚園の先生や10人の信徒が集い、良きお礼拝のひとときを過ごすことができて、よい時間となりました。

第2、第3主日は「みことばの礼拝」を行っており、信徒が年々高齢化し、信徒数が減ってきてい

るため、少ない人数で礼拝を守っています。「二人または三人が私の名によって集まるところには、私もその中にいるのである」マタイによる福音書18章20節よりのみ言葉を信じて、お祈りしています。

10月逝去者記念聖餐式

10月1日(水)午前10時30分

於 主教座聖堂

司式・説教 長谷川清純 主教

司祭 駒野 義夫

1946年10月5日逝去

司祭 William Franklin Draper

1999年10月9日逝去

執事 ヨセフ 山本 清司

2003年10月9日逝去

宣教師 Miss Gladys Gertrude Spencer

1960年10月11日逝去

司祭 ポーロ 滝口 三郎

1976年10月12日逝去

伝道師 度会 伝吉

1928年10月15日逝去

伝道師 吉津 愛一郎

1976年10月18日逝去

司祭 宅間 六郎

1955年10月23日逝去

宣教師 Miss Bessie Mead

1954年10月25日逝去

司祭 ステパノ 木村 兵三

1968年10月25日逝去

司祭 F.C.Meredith

1926年10月27日逝去

伝道師 蛸崎 佐久

1904年10月29日逝去

10月26日(日)は「社会事業の日」です。社会事業の働きを覚えて祈り、献金をお献げください。

2025 耳を傾けようキャンペーン

神のみ声に、人々の声に、

そして世界の声に耳を傾けよう

〜となりびととなるために〜

2026年 2025年10月中旬発売

聖公会手帳

大型判 (A5) 2,200 円 (税込)

ポケット判 1,200 円 (税込)

◆日本聖公会各教区の協力のもと、
管区事務所が責任編集

◆2026年度 教会暦・日課表を完全収録

《お申込みは バイブルハウス東京へ》

☎ 03-3203-4137

※インターネットでのご注文も可能です

